プログラミング言語実験 第3回 コンピュータ大貧民 -- コンピュータ大貧民クライアント --

2019年04月22日、23日

1 配布ファイルの構成

1.1 大貧民サーバと大貧民標準クライアント

/usr/local/class/daihinmin/より配布した「tndhm_devkit_c-20180826.tar.gz」ファイルは、大貧民サーバと大貧民標準クライアントが同梱されている。「tndhm_devkit_c-20180826.tar.gz」を展開したディレクトリの構成は以下のようになっている。

⊢ tndhm_devkit_c-20180826
 ⊢ client
 ⊢ man
 ⊢ server
 ⊢ src

図 1: ディレクトリ構成

「client」ディレクトリには大貧民標準クライアントプログラム、「server」ディレクトリには大貧民サーバプログラム、「man」ディレクトリにはマニュアルが格納されている。この授業では上記のプログラムを改変する必要はない。この授業では、大貧民クライアントプログラムの実装を行うが、実装は以降で説明する「大貧民教育用クライアント」を対象に行う。

1.2 大貧民教育用クライアント

1.2.1 大貧民教育用クライアントのコンパイル・実行

/usr/local/class/daihinmin/に格納されている「tndhmc-0.03.tar.gz」ファイルは、大貧民教育用クライアントのファイルであり、この授業で開発する対象のプログラムである。

まず、大貧民教育用クライアントのファイルを各自の領域にコピーして展開し、コンパイルを行う。続いて、大貧民教育用クライアントを実行する。

- 1. 画面左側に表示されている「端末」のアイコンをクリックし、ターミナルを起動する。
- 2. コンピュータ大貧民プログラムを各自のホームディレクトリ下の階層にコピーする。
 - cp /usr/local/class/daihinmin/tndhmc-0.03.tar.gz ~/uecda/
- 3. コピーしたファイルを展開する。

cd ~/uecda
tar xzvf tndhmc-0.03.tar.gz

4. 大貧民教育用クライアントのコンパイル (configure、make)を行う。

cd ~/uecda/tndhmc-0.03
./configure
make

なお、C のソースプログラムを修正し、再度コンパイルを行うときは、f make f clean」を実行して実行ファイルを削除した後で、f make」を実行する。

5. (大貧民サーバを実行 (「コンピュータ大貧民とは」の「3.1.1 大貧民サーバのコンパイル・ 実行」手順 5 参照)後、)大貧民教育用クライアントを実行する。

> cd ~/uecda/tndhmc-0.03/src ./client -p <ポート番号> &

ポート番号は、大貧民サーバ起動時に指定したポート番号を入力する。

1.2.2 ソースコードの概要

大貧民教育用クライアントは、教育用途に合わせて、大貧民標準クライアントからサブセットを 作成したものである。最低限の関数のみ実装し、大域変数を廃止してある。ファイル構成は以下の とおりである。

client.c全体の流れを制御

• select_cards.c

提出カードを選択

• common.c

共通関数

• daihinmin.c

基本関数

• connection.c

通信関係

次に、この授業で主に扱う common.c と select_cards.c について説明する。 common.c は基本的な配列操作を行う関数である。主に以下の操作を行う。

- 指定より弱いカードの削除。指定したスート¹の削除
- and, or, copy, diff, not, count_cards
- テーブルのコピー、テーブルの初期化

select_cards.c は基本的なカード提出アルゴリズムであり、主に以下の操作を行う。

- 通常時に単騎2でのみ提出
- 革命³時や縛り⁴、ペアや階段⁵では何もしない

[バグ情報] 上記のファイル common.c 中にバグがあります。154 行目の

```
if ( (field_status->is_rev==0) || (field_status->is_rev==1) ) {
```

は、

if (field_status->is_rev==0) {

に修正しておいてください。

2 大貧民におけるカードの表現

UECda において、場に出ているカードや手持ちのカードは、 8×15 の配列として与えられる。概要を表 1 に示す。UECda におけるクライアントプログラムの作成を行うには、"配列を読み取り、どのカードを出すかを決定し、やはり配列に値をセットして送り返す"プログラムを書くことになる。

たとえば、手持ちのカードがダイヤの3,4、ハートの9と11の場合は、表2のようになる(カードがあるなら1、ないなら0)。

なお、Joker は「2」で表される。表3がその例である。

場にハートの3,4、Joker、ハートの6の階段が出された場合は、表4のように表される。

- 1 トランプのマーク (スペード、ハート、ダイヤ、クローバー) の意味。
- ²カード 1 枚のみで出すこと。
- 3 革命が発生すると、カードの強弱が逆転する。革命が発生する条件は以下の通り:
- (1)同じ数字のカードが4枚同時に出されたとき
- (2)同じ数字のカード3枚と、ジョーカーが同時に出されたとき
- (3)同じ数字のカード4枚とジョーカーが同時に出されたとき
- (4)5枚以上のカードが階段として同時に出されたとき
- ⁴場に出ているカードと同じスートのカードしか出すことができない状態。
- 5同じスートの、数字の連続したカードが3枚以上ある状態。

表 1: コンピュータ大貧民におけるカード表現 3 4 5 6 7 8 9 10 J O K A 2

		3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K	Α	2	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0		ス	スペード、左から 3,4,5,,Q,K,A,2												
1		八	ハート												
2		ダイヤ													
3		クローバー													
4															
5															
6															
7															

表 2: 手持ちカードの表現例 1

		3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K	A	2	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1								1		1					
2		1	1												
3															
4															
5															
6															
7															

表 3: 手持ちカードの表現例 2 (ジョーカー)

		3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K	А	2	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1			1	1	1				1	1		1			
2							1								
3							1			1					
4		2													
5															
6															
7															

表 4: 場のカードの表現例(階段)

		3	4	5	6	7	8	9	10	J	Q	K	A	2	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1		1	1	2	1										
2															
3															
4															
5															
6															
7															

3 構造体 state と変数 field_status

構造体 state と変数 field_status の概要を以下に示す。

- 場の状況等を保存するための構造体と変数
- get_field_state_from_own_cards と get_field_state_from_field_cards で更新 (client.c にすでに 書いてある)
- 構造体のメンバ(すべて整数型)
 - ord, suit[5], quantity, is_sequence(is_sequence は場のカード情報を表す)
 - is_rev, is_lock, is_no_card(is_no_card は場の状況を表す)
 - player_quantity[5], player_rank[5], seat[5];(player_rank[5] はプレイヤーの状況を表す)
 - have_joker(自分が Joker を持っているかどうかを表す)